

平成 30 年 8 月 24 日

総 務 部 長
河 村 松 雄 様

公 印 省 略
曹洞宗埼玉県第一宗務所
所長 安野正樹

埼玉県 396 番見性院檀信徒面会の御礼

謹 啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて過日は、河村総務部長老師をはじめ横井人事部長老師、天山課長様には貴重なお時間を頂戴し、
洵に有難うございました。また、唐突な質問にも丁重なるご回答を戴き、重ねて御礼申し上げます。

お感じになられたことと思いますが、見性院の檀信徒の皆様は純朴で穏やかな方々ばかりです。決して好き好んで菩提寺の住職と争いたいわけではありません。今回の要望書を提出することも、できれば避けたかったという心境だと思います。それでも 420 名を超える方々が署名し、32 名の方が自費で本庁に赴き、直訴にいったということは、それだけ住職の行動が看過しがたいものであったということの証左でありましょう。

今後、場合によっては審事院において調停ということになるのかもしれませんが、できればその前に寺檀が歩み寄れるような手段を図ることが、双方にとってもよりよい道と私は思量いたします。そこでお願いでございますが、檀信徒からの要望書が提出されたことを踏まえ、橋本住職を本庁に呼んで事情を聴取するといったようなことをしていただけませんか。もし師にも言い分があるのならば、その場で述べればよいと思いますし、また不適切な考えを持っているようであれば、その場で本庁よりご指導していただければ、師も耳を傾けるのではないかと思います。

檀信徒の皆様の中にはご高齢の方もいらっしゃる。「自分の葬儀は一体どうなるのか、承諾書を出していないから、住職ではない見たこともないような坊さんが、私の葬儀を勤めるのか」「反対派だから、また寺の掲示板に『ざまあみろ』くらいのことを書かれてしまうのか」「子や孫に迷惑がかかりはしないか」「いっそのこと寺を出て行ったほうがいいのか」…このような様々な思いを抱えながら過ごしておられるのです。

寺離れがいわれる今の世の中で、こんなに菩提寺を大切に思う曹洞宗のお檀家様をこれ以上苦しめてはなりません。今回の直訴を宗門が真正面から受け止めてくれるのか、手間を惜しまずに暑い中を署名お願いで回られた役員様や勇気を出して署名された大勢のお檀家様達、そして教区寺院や管内寺院いえ全国の寺院が、本庁のご対応を待っています。慎重に進めることも一つかもしれませんが、時間をかければかけるほど、かえって宗門への不信感が高まることにもなりかねません。

部長老師また本庁の皆様には、諸事ご多端の折とは存じますが、直面している檀信徒様、ご寺院様の思いをどうかお汲み取りいただき、ぜひご検討の上、なるべく早いご回答を頂戴できますよう、切にお願い申し上げます。

御礼並びにお願いまで。

合 掌